

技能評価システム移転促進事業(SESPP) は日本式技能評価のノウハウを移転するため、ベトナム、カンボジア、インドネシア、ミャンマーを対象に日本の専門家によるセミナーや技能評価トライアルを実施しています。事業の運営事務局を株式会社 J T B 霞が関事業部にて受託しております。

日本式の技能評価の活用促進が図れるよう、J-Skills Newsでは、事業の取組など、お知らせしています。(年4回発行)

## □研修レポート

今回はベトナムで実施された機械検査の研修について報告します。

### ■ベトナムにおける機械検査2級の技能評価者講習

モノづくりに係わる日系企業から多くの従業員が受検する機械検査は、人気の高い職種のひとつです。機械検査3級に関しては、2015年9月～2020年1月の間、ハノイ地域(ハノイとハイズン)とホーチミンにおいて研修を実施し、ハノイ地域で13人、ホーチミンで3人の認定評価者が誕生しています。今回は、機械検査3級技能評価トライアルの経験者に機械検査2級の実技試験の実施方法を指導することを目的として、2020年12月22日(火)～24日(木)にハノイ工業大学(HaUI)と日本をオンラインで結んで、リモート研修を実施しました。

受講者は職業短大等における指導員(講師)で、10人中7人は機械検査3級の認定評価者でした。研修の講師を務めた柚木正憲氏からは『計画立案作業試験問題については、コツをつかめば容易に正解を求められると思う。テキストを作ったので、一問ずつトライしてコツをつかんで頂きたい。』、稲川文夫氏(SESPP事務局技術顧問)からは『認定評価者が参加したことで、効果的な研修になった。特に初めての受講者にとっても参考になったと思う。』との講評を頂きました。



日本側講師による講義の風景



日本側講義風景  
(複数のモニターで確認しながらの講義)



現地研修風景

### ■ベトナムにおける機械検査2級の技能評価技法講習

本研修は、機械検査2級の学科試験問題(真偽法の問題と四肢択一法の問題)の作成方法を指導し、受講者に問題作成能力を付与することを目的として、2021年1月13日(水)～19日(火)にハノイ工業大学(HaUI)と日本をオンラインで結んで、リモートで実施されました。

受講者はハノイ工業大学(HaUI)及び職業短大における指導員(講師)8人、その内6人は、昨年実施した機械検査3級技能評価技法の修了者で、学科試験問題(真偽法)の作成を経験した方でした。

研修の講師を務めた稲川文夫氏(SESPP事務局技術顧問)からは『2級の学科試験問題（四肢択一問題）は、3級の真偽法の問題と比較するとレベルが高く、受講者にとってはハードルの高いことがうかがえた。実技試験の計画立案等作業試験の問題の中には、三角関数やピタゴラスの定理を応用して幾何数学の問題を解法するものがある。今後は、受講者の不得意な分野の問題を克服するための補講をする必要があるように思う。』との講評を頂きました。

また、受講者からは、『日本人専門家の指導の下で作成した技能検定試験問題集を、ベトナム国家技能検定試験問題集に加えるよう、職業教育訓練総局(DVET)と協議して欲しい。』との意見が寄せられました。



日本側講義風景



現地研修風景（問題作成演習）



オンライン越しの集合写真

## □報道掲載記事紹介

◆今回実施したベトナムでの機械検査2級技能評価者講習の様子がメディアで報道されました。報道記事を紹介します。

### ■タウンニュース八王子版新聞掲載記事

#### オンライン研修 台町スタジオから

##### ノウハウ 途上国へ

日本のノウハウをアジアの開発途上国へ。厚生労働省による「技能評価システム移転促進事業」の一部が現在、「八王子発」で行われている。

この事業は、日本式の技能検定の知識や技術を移転すること、また、日本のものづくりの現場で培われた熟練技能者育成のノウハウを伝え、各国の人材育成に貢献することを目的とする。2002年から、日本人の講師が現地で指導する形で行われてきた。

ただ、昨年は新型コロナウイルス感染症の影響で海外での研修が困難に。そこで昨年秋からインターネットを利用したリモート対応を展開してきた。

##### 「在住」きっかけ

12月末、台町のスタジオオルウェイズに関係者らが集まり、リアルタイムでベトナムの短期大学の教員らに授業をした。内容は「機械検査2級SAT」。講師のひとりで同事業の技術顧問を務める稲川文夫さん(株式会社JTB)がカメラにむかい、現地の生徒に話しかけると目の前のPC画面に彼らの真剣なまなざしが映る。

稲川さんは「今日はピタゴラスの定義や三角関数などを教えました。この事業は現地で検定の先生を養成するためのものです」と説明する。稲川さんが市内在住で、たまたま市内に配信環境が整ったスタジオの存在を知り、「八王子発」の実施となった。

「できるならやってみようと思ひ、試みました」と稲川さん。「リモートだと限界を感じる部分もある。それでも現地のために努力していきたい」。八王子からの配信は1月、2月も予定している。



途上国へむけたオンライン研修の様子。中央が稲川さん

(参考)タウンニュース八王子版掲載資料

<https://www.townnews.co.jp/0305/2021/01/07/557564.html>

## □ハノイ工業大学（HaUI）の国家技能検定への取組み

◆ハノイ工業大学(HaUI)企業連携センターは、CNC金属加工、自動車整備、工業電気など7職種の国家技能検定を実施しています。今回、ベトナムにおけるSESPPの支援や成果について、当センター所長のNguyen Van Thanh氏にお話を伺いましたのでご紹介します。

### 1. 旋盤とフライス盤がベトナムの国家技能検定として認定されましたが、その要因は何だと思われますか？

#### Q1)まず、産業界、企業のニーズについて教えてください。

2025年までのベトナム機械分野開発戦略によると、2035年に向けたビジョンにおいて、機械工業は、様々な分野(農業、製造業、自動車業、工業設備、電気設備等)を支える基礎になっています。

職業教育訓練総局(DVET)は、ベトナムの国家技能検定を促進するために多くの活動を実施しています。

とりわけ、旋盤とフライス盤は機械工業の中でも人気があります。ベトナムの企業において、サブワーカー、機械作業員、技術者などの熟練した技能を持つ人材に非常に高い需要があります。

#### Q2)企業とはどのように連携されていますか？

HaUIは企業とWinxWinの関係を築き上げたいと考えています。

HaUIはより多くの高度人材を輩出し、企業は高度人材を雇用することで質の高い労働力の確保を実現できます。企業との主な活動には、スタディツアー、インターンシップ、労働力の提供、産学連携訓練、短期訓練、受注生産、技能評価があります。HaUIが取り組んでいる活動は以下の通りです。

①スタディツアー：企業と連携し、講師(指導員)と学生が実際の職場環境を体験し、現場で通用する実践的な能力を高め、業界のマナー(ふるまい)を学びます。

②雇用機会ワークショップ、ジョブフェア、キャリアセミナー、就活情報提供：このような機会を通じて、企業側は将来雇用したい人材を見極めます。

③企業との意見交換：企業から訓練内容についてのフィードバックを受け、企業の従業員向けに短期間訓練コースを提供し、企業からは、奨学金及び設備供与などの支援を受けています。

④受注生産、連携リサーチ：実践的な技能を身につけるために、企業、指導員、学生が一体となってリサーチを実施し、ものづくりを実践します。HaUIの最新設備で顧客が求める質の高い製品を提供します。

⑤技能評価センターとして：国家技能検定の実施や技能競技大会を運営しています。

#### Q3)JICAおよびSESPP(厚生労働省)の協力支援について

JICA及びSESPPの支援は、ベトナムにおける国家資格となる技能検定の仕組みづくりに欠かせません。

ベトナムの指導員たちは、プログラムを受講することで検定試験問題の作成や、日本式技能検定の実施・運営方法について学ぶことができます。日本の先生方は、経験豊富で情熱的であり、専門的かつ明確な実施計画の下、指導を実施されています。また実施・運営への経済的支援にもとても感謝しています。



Thanh氏



実技試験受検風景（機械検査）



実技試験受検風景（機械検査）

## 2. HaUIでは、旋盤とフライス盤の検定試験をどのように実施されていますか？

### Q1)宣伝や広報活動についてお聞かせください。

数通りの方法で広報を行っています。具体的にはポスターの作成と、Webサイトへの掲載です。企業宛てに直接案内状を送付しています。工業団地の管理委員会とは地域ごとに連携し、相互に情報交換するなど交流を図っています。

### Q2)およそ何社にアプローチされていらっしゃるのでしょうか？

2018年には、デンソー(DENSO MANUFACTURING VIETNAM CO.,LTD)にフライス盤の国家技能検定への受検を呼びかけました。

2020年には、17企業に呼びかけましたが、新型コロナ感染拡大の影響もあって一時中断しております。他に、直接企業と連携し、HaUIで技能競技大会を企画し、数百社に我々の活動を紹介しました。

### Q3)実際に何社から何名の受検がありましたか？

2018年に国家検定としてフライス盤レベル2を実施し、デンソーから9名が受検しました。一方、2013年～2016年の間で、SESPPプログラムとして日本式フライス盤3級の技能評価トライアルを4回実施しており、5企業及び訓練施設から37名が受検しました。

## 3. 技能検定のための準備訓練について

### Q1)受検応募者にどのような訓練を提供していますか？

受検応募者から、機械または実際の機器の使い方を学びたいと要望された場合、HaUIはその要望に応えています。

2013年から、HaUIは訓練校及び企業からの受検者累計2258名を対象に国家技能検定を実施してきました。そのうち90%の受検者が、機器及び設備について学ぶための準備訓練を受講していました。

2018年には、デンソーの受検者9名が準備訓練を受講しました。

### Q2)参加企業や受講者からの提案やフィードバックはありますか？

SESPPプログラムの技能評価トライアルに参加した日系企業の方々からは、「刺激を受けることができた、継続して参加したい」といった声がありました。

## 4. 将来の見通しについてお聞かせください。

将来的に国家検定基準と試験問題が十分に蓄積され、準備が整い次第、ベトナムで旋盤と、フライス盤(レベル3)の国家検定を実施したいと考えております。

労働・傷病兵・社会問題省(MoLISA)は、2020年に旋盤については国家技能検定試験問題集をまとめ、フライス盤については国家職業技能基準を設定すると聞いています。

Thanh様、ご協力有難うございました。



HaUI全景

発行：SESPP事務局（株式会社JTB 霞が関事業部）

## 『J-Skills News』に関するお問合せ

SESPP事務局（株式会社JTB 霞が関事業部）

〒100-6051 東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビルディング23階  
 TEL：+81-3-6737-9263 FAX：+81-3-6737-9266  
 担当：近藤・横山・岩下・風見  
 E-mail：[sespp@jtb.com](mailto:sespp@jtb.com)